

# 28年度県当初予算 7216億3800万円

## 「ぐんま創生予算」大沢知事

平成28年度群馬県議会第一回定例会は3月22日に閉会、県が示した総額7216億3800万円の28年度一般会計当初予算案などを議決しました。27年度当初と比べ56億円(0.8%)増で、大沢正明知事の下で過去最大。知事は「人口減少社会でも県民が豊かに暮らせる社会づくりに向け『ぐんま創生予算』を編成した」と述べ、県民生活の質向上に配慮しています。

予算の歳入は、好調な企業業績を反映して県税収入が前年度比5.5%増の2490億円を見込みました。歳出は、社会保障関連費が高齢化に伴い2.8%増の922億円と過去最大。借金に頼らず政策経費を賄っているを示すプライマリーバランスは臨時財政対策債を除く算定で16年連続、臨財債を含めても3年連続の黒字を維持しています。

**公共事業費は5.2%増  
補正と合わせ920億円**

公共事業費は836億円を計上、直前の平成27年度2月補正84億円と合わせ920億円を確保しました。当初予算と補正を合わせた金額ベースで前年比5.2%増。

県が国に代わって道路用地を確保するため特別会計(20億円)も活用します。西毛広域幹線道路も重点整備します。

止するため治水対策に58億220万円、土砂災害対策に48億4306万円を計上しました。本体工事が進んでいる八ッ場ダム関連は6億1702万円を計上しています。

県単事業は、県土整備部関連が200億円、環境森林部関連が28億3000万円、農政部関連が7億6000万円、企画部関連が3億円で、自

万円を付け、東毛広域幹線道路の玉村伊勢崎バイパス4車線化や国道17号上武道路の全線開通を予定しています。上信自動車道渋川西バイパス整備に向け、

災・減災対策には127億6476万円をあてます。昨年9月の関東・東北豪雨で堤防が決壊したことなどを教訓に、局地的豪雨や台風などによる災害を防

た予算額になっています。林部関連が28億3000万円、農政部関連が7億6000万円、企画部関連が3億円で、自

館林特別支援学校は増改築工事に着手します。教室不足や老朽化への対応で、新校舎の使用は平成29年9月を予定しています。県は本年度予算に2億7300万円計上。本体工事費1億8400万円余りと仮設校舎の経費約8800万円余りです。

**県立高エアコン設置へ**  
県立高等学校の学習環境の改善で、県は本年度から計画的にすべての高校で空調設備を整備します。初年度は6億4800万円の予算をつけ、県立高校の第3学年の教室にエアコンを設置します。その後は、3カ年で順次エアコンを付けていきます。館林市は全国レベルでも夏の高温が目立ち、周辺で学ぶ高校生にとって、期待の大きい施策となります。

### TPP対策に51億円

環太平洋経済連携協定(TPP)の発効に備え、農林業、商工業、国際戦略などに51億1400万円余りを計上しました。県の試算は、TPP発効の県内農業への影響が生産額で24億8000万、47億4000万円の減少を見込んでいます。牛肉、豚肉への影響が大きく、競争力強化を目指す新規事業を立ち上げるほか、海外展開など需要開拓の支援に取り組みます。



自民党県議団は昨年10月、イタリア・ミラノを訪れ、群馬の農畜産物をPRしました(写真上)。ふるさとの発展に「海外は重要」との判断からです。新年度の予算編成も、海外からの誘客、農畜産物の輸出の推進を強く要望しました(写真下)

### その他の主な事業&予算

前橋赤十字病院建設事業費補助	13億6258万3000円
コンベンション施設整備推進	18億6041万4000円
林業・木材産業振興	7億4539万6000円
ぐんまの木で家づくり支援	3億3590万円
文化財保存事業費補助(世界遺産関連)	2億1326万円
競技力向上対策	2億円
交番・駐在所整備	1億3460万円

### TPP対策の主な予算

【農林業分野】50億4340万9000円	
農業構造改善対策	10億8442万4000円
担い手への農地集積・集約化	5億7031万8000円
農業者育成対策	2億6199万1000円
「野菜王国・ぐんま」総合対策	1億4700万円
農業競争力強化基盤整備	13億1270万8000円
農畜産物等輸出促進	4537万7000円
畜産競争力強化整備(新規)	6億5100万円
小規模農村整備	6億6000万円
【商工業分野】4609万2000円	
中小企業支援センターの設置	2558万5000円
【国際戦略】2496万9000円	



## キュウリ日本一へ 館林産地が新技術に期待

群馬県は出荷量で、キュウリと路地ナス(夏秋ナス)がそれぞれ全国2位です。中でも、館林・邑楽地域は県内有数のキュウリ産地です。県農業技術センターは本年度から「野菜王国ぐんま・活力ある野菜産地の実現プロジェクト研究」としてキュウリ収量を従来の1.5倍にする技術の確立を進めています。自民党農政連事務局長須藤和臣は「地方創生の足掛かりとしたい」と地元農業の発展を支援しています。